

2019年10月吉日

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 中東研究センター
2019年度国際シンポジウム

特別セッションのご案内

平素は格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本日は、来る11月11日に経団連会館で開催を予定しております、日本エネルギー経済研究所中東研究センターの2019年度国際シンポジウム特別セッション（兼 第4回特別会員限定・情勢分析報告会）について、ご案内申し上げます。

今日の中東情勢を説明する基本的な構図の一つに、イランとサウジアラビアの対立があります。両国は長い歴史の中で、必ずしも常に対立を続けてきたわけではありませんが、近年では地域大国としての覇権を競い合っております。2016年1月にイランでサウジアラビア外交施設に対する焼き討ちが発生すると、これをきっかけに両国の断交が始まりました。サウジアラビアは、トランプ政権や関係国への働きかけを通じて、イラン封じ込めを強化しようとしています。一方でイランも、イエメンのフーシー派への支援などを通じて、サウジアラビアの安全保障体制に揺さぶりをかけています。両国の対立は、不安定な中東の単なる象徴ではなく、実際だと言えます。

翻って、両国は中東情勢の安定にとっても不可欠な存在でもあります。仮に両国が直接戦火を交えることがあったり、またはそれぞれの国において体制の存続に強い疑問が生じるような事態が生じたとすれば、中東情勢はこれまでに類を見ないような混乱に陥る危険があります。その混乱は、国際経済やエネルギー市場を通じて即座に広まるため、国際社会も対岸の火事として済ますことは不可能です。

日本エネルギー経済研究所では、このような問題関心をもとに「シナリオプランニング」という手法を用いて、両国の「危機シナリオ」を検討いたしました。本年度の国際シンポジウムの特別セッションにおきまして、中東研究センターの坂梨祥センター長代行からはイラン危機シナリオについて、同じく保坂修司副センター長からはサウジ危機シナリオをご報告申し上げます。次いで、米国ワシントン・アラブ湾岸諸国研究所シニアフェローのアリー・アルフォネ氏と、UAE ザーイド大学助教のハーリド・アルメザイニー博士という湾岸情勢の専門家をお迎えし、シナリオが描く両国の未来と不確実なリスクへの向き合い方に関して、活発な議論を展開できればと考えております。

皆さまにおかれましてはご多用の折とは存じますが、奮ってご参加いただけますよう、お願い申し上げます。

一般財団法人 日本エネルギー経済研究所
中東研究センター長
田中 浩一郎